

カンボジア：テブさんらがやっと自由に

カンボジア首都プノンペンのボンコク地区で人権活動をするテブ・バニさんは8月20日、国王の恩赦を受け、活動仲間3人とともに釈放されました。

テブさんら4人は2014年、市役所前で集会を開き、地区内の下水道管が破れ、溢れ出した泥水が、大きな問題になっている問題で、自治体に対して早急の対応を訴えていました。ところが、駆けつけた警察官に拘束され、その後、根も葉もない容疑で起訴され、実刑1年と罰金刑の判決を受けて、収監されたのです。その後、彼女たちの投獄に抗議した人たちも、投獄される事態となりました。

表現の自由の行使に対する当局の姿勢は、今後も注意が必要ですが、今回の釈放は、大いに歓迎すべきです。釈放を求める活動に参加してくださった皆さん、ありがとうございました。

インド：マニプール州での人権活動を強化

アムネスティ・インド支部がインドの人権状況の改善を進める上で、協力関係にあるのが、地元の人権 NGO、ヒューマン・ライツ・アラート (HRA) です。HRA は、マニプー



ル州で活動する幅広い人々を支援する一環として、州都インパールでの「人間の鎖」キャンペーンや集会を実施してきました。また、個別的取り組みとして、最近、州知事と面談し、アムネスティ・インド支部のメンバーが脅迫されている問題などへの対応を交渉してくれました。

アムネスティ・インド支部は、HRA とともに引き続き状況を注視し、人権活動家に対する嫌がらせの撲滅を目指して、当局に実効性ある対応を求める活動を続けていきます。

トルコ：支部元理事長が保釈されました！

嘘の容疑で逮捕・勾留されてからおよそ1年2カ月、アムネスティ・トルコ支部の名誉理事長タネル・クルチュさんが、ようやく保釈され、家族の元に戻ることができました。



タネルさんと家族 ©Amnesty International

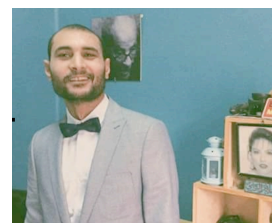
この1年あまり、アムネスティの世界各地の会員やサポーターは、クルチュさんの釈放を求める呼びかけや手紙書きなど、粘り強く活動を続けてきました。そんなみなさんへのクルチュさんからメッセージです。

「…みなさんの団結と根気ある取り組みで、私たちは、国内外から大きな注目を受けました。みなさんからの、気持ちがこもったメッセージや#FreeTaner の激励などが、特に印象的でした。どれだけ支えになったことでしょうか」。

しかし、クルチュさんたちの容疑は残ったままで、裁判が続きます。これからが正念場です。引き続き、皆様のご支援をお願いします。

エジプト：アル・レファイさんが自由に！

8月16日、イスラム・アル・レファイさんが2,000エジプトポンド（約12,000円）の保釈金を払って釈放されました。



アル・レファイさんは、ツイッターなどソーシャルメディアで活発に言論活動をし、政治やメディアなどへの鋭い発言で知られています。昨年、特に関心を向けていたエジプトの宗教や文化に関し、批判的コメントをしたことで、11月に逮捕され、起訴も裁判もないまま勾留されていました。

彼の釈放を求める運動に参加してくださった皆さんに感謝いたします。

ブラジル：正義のために闘った女性に正義を！

今年も、まもなくライティングマラソンが始まります。対象者の1人は、リオデジャネイロ市議会議員であった亡きマリエール・フランコさんです。

優しさと強さと情熱を兼ね備えたマリエールさんは、国内の人権問題に敢然と取り組んでいました。アフリカ系ブラジル人の若者や女性、LGBTI(レスビアン、ゲイ、バイセクシュアル、トランスジェンダー、インタセックス)の人たちのために闘い、リオデジャネイロの貧民街(ファヴェーラ)で頻繁に起きている警察の暴力や殺人の問題に果敢に取り組んでいました。

しかし、今年3月、車で移動中に何者かに襲われ、運転手と共に射殺されました。なんとも非業の最期でした。

ブラジルでは、人権状況の改善のために声を上げる人たちが、日常的に脅されたり、襲われたりしています。マリエールさんのように惨殺されることも珍しくありません。しかし、当局は、こうした事件をなおざりな捜査で打ち切り、その多くが迷宮入りとなっています。マリエールさんの殺害事件も、いまだに捜査が進んでいません。

マリエールさんの殺害に憤り、徹底した捜査と正義を求める声はブラジル中に、そして世界へと広がっています。ライティングマラソンであなたも声を上げてください！



アンゴラ：若者3人の拘束が解かれる

7月17日、副大統領に投石したとして、罪を問われていたアフォンソ・S・ムアチプクロさん(22才)、アントニオ・J・フェルナンドさん(18才)、ジャスティノ・H・ヴァレンテさん(21才)の3人が、証拠不十分で無罪判決を受け、釈放されました。

4月4日、公式行事に向かっていた副大統領の車列が、デモ隊に遭遇し、石をぶつけられた事件で、3人が容疑者として拘束されました。警察は当初、「3人がデモで投石したことは、シャツの色でわかった」と主張していました。しかし、投石時、3人は現場から遠く離れたところをいたため、事件とは無関係であることは明らかでした。

3人は4月の一審の裁判では、3人が現場にいたことを示す証拠が何一つ提出されないまま、実刑7カ月を言い渡されました。アリバイを証言する証人を立てる機会もなく、大変不公正な判決でした。

しかし、7月の控訴審では、証拠の有無なども含め、公正な審理が尽くされ、その結果、投石に関与したことを示す証拠が不十分だとして、3人は、逆転無罪を言い渡され、釈放されました。

ジャスティノさんの姉は、アムネスティが3人の若者の釈放を求める運動をしたことに強く感激したことを伝えてきました。

要請文を送っていただいたすべての方々に感謝します。本件に関わるアクションはこれで終了します。

UA ニュース

発行：アムネスティ・インターナショナル日本
〒101-0052 東京都千代田区神田小川町2-12-14 晴花ビル7F
TEL: 03-3518-6777 FAX: 03-3518-6778
E-mail: uaoffice@amnesty.or.jp

UA 年会費 3000円
郵便振替 00120-9-133251
加入者名 公益社団法人アムネスティ・インターナショナル日本